

平成29年度 職員用アンケート集計結果（H30. 1実施）

資料4

	設 問	評価
1①	各単元の学習に入る前に、既習事項の確認をして、児童の実態を把握した。	3.2
1①	練習問題などを通して理解の不十分な児童を把握し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指して、反復練習の指導を工夫した。	3.3
1④	漢字・計算コンクールを通して、基礎学力が身についたかどうかの確認をし、個に応じた指導を行った。	3.3
2①	単元構想の中に「学び合い」を位置付けて、実践することができた。	3.0
2②	考えを聞き合ったり、わからないことを聞いたりできる学習集団作りが行えた。	3.1
2③	ペアやグループ活動において、考えの伝え方・聞き方・つなぎ方について発達段階に応じた工夫を行えた。	2.7
2④	授業によって自分の考えが深まったり、変化したりしたことを児童に意識させられた。	2.6
3①	道徳の授業を計画的に行うことができた。	2.5
3②	道徳の授業において、問題解決的な視点に基づいて授業を組み立てることができた。	2.6
3③	道徳の授業を体験活動（行事や教科）と関連づけて実施することができた。	2.8
3④	道徳の時間における学び合いを通じて、児童が多面的・多角的に物事を考えることができた。	2.5
4①②	児童が進んであいさつができるよう指導した。	3.4
4③	児童会活動において、高学年が役割を果たすことができるよう指導した。（企画運営委員会、代表委員会、委員会、縦割り班等）	3.4
4④	児童の自己有用感が育まれるような指導を工夫した。	3.1
4⑤	児童が安心して生活できるような支援を心掛けた。	3.4
5①	児童が、運動会の練習にそれぞれ目標をもって取り組めるよう指導した。	3.4
5②	児童が、なわとび運動に意欲的に取り組めるよう指導した。	3.2
6①	学年便りや文書、ホームページなどを通じて、必要に応じて人材募集を行った。	2.3
6②	地域や保護者、外部の講師等、必要に応じて活用することができた。	3.2
6③	出前授業等の内容を次年度の参考になるよう残した。	2.9
7①	重点努力目標を常に意識して取り組んでいる。	3.0
7②	学校評価等を生かして、学校や授業改善に取り組むことができた。（学級経営案での振り返り、授業や行事などのPDCA等）	3.1
7④	各種便りや新聞、ホームページ等を通して、保護者や地域の方に学校の様子を知らせている。	3.3
8①	研究授業に向けて、各部会での検討をしっかりと行うことができた。	3.1
8②	研究協議会で、授業でのペアやグループ活動の効果を検討し、学び合いの充実を図ることができた。	3.1
8③	個別の支援が必要な児童に関してケース会議を行い、効果的な支援をすることができた。	2.8
8③	特別に支援の必要な児童に応じた取組ができた。	3.1
8④	先進校の視察や外部講師の講義などにより、現職教育のテーマに沿った研修を行うことができた。	2.9
9①	校務分掌について、仕事が特定の人に集中せず適切に分担されていた。	3.0
9②	校務分掌について、仕事の相関関係がうまくでき、互いに協力し合える体制になっていた。	3.2
9③	提案事項について、十分検討する機会が設けられていた。	3.1
9④	報告・連絡・相談体制が機能している。	3.4
10	学校でけがをしたり、体調が悪くなったりしたときの対応が適切である。	3.4
11	学校は、非常災害時や不審者対策など緊急時の対応ができています。	3.1
12	保護者との連絡や意思疎通を積極的に行っている。	3.3
13	学校がきちんと整備されていて、教育の場としてふさわしい。	3.2
14	学校では児童や学年に応じた働くことの意義や目的などを学ぶ機会を設けている。	3.0

